20230723 猪高の森自然観察会　2023 年 7 月報告書

# 猪高の森自然観察だより　７月号

開催日時：2023 年 7 月 23 日（日）

天候：晴　　気温：最低 24.5℃、最高 33.4℃（名古屋に於いて）

テーマ：セミとトンボ　夏の花と虫

参加者構成：一般　20 名（内 NACS-J 指導員 4 名、小学生 3 名）

コース予定：森の集会所 → 井堀の大クス→ 井堀の下池→ 井堀の谷地田 → こもれび池 → シダレザクラの里 → 森の集会所　　（左上の画像はツユクサ）

７月は、東北や九州では前例にない程の雨量があり、太平洋側では熱中症警戒アラートが出るなど極端な気候が続いています。これもまた温暖化の影響のひとつなのでしょうか。

東海地方の梅雨明けは７月２０日、７月２５日には、全国で梅雨明けしました。

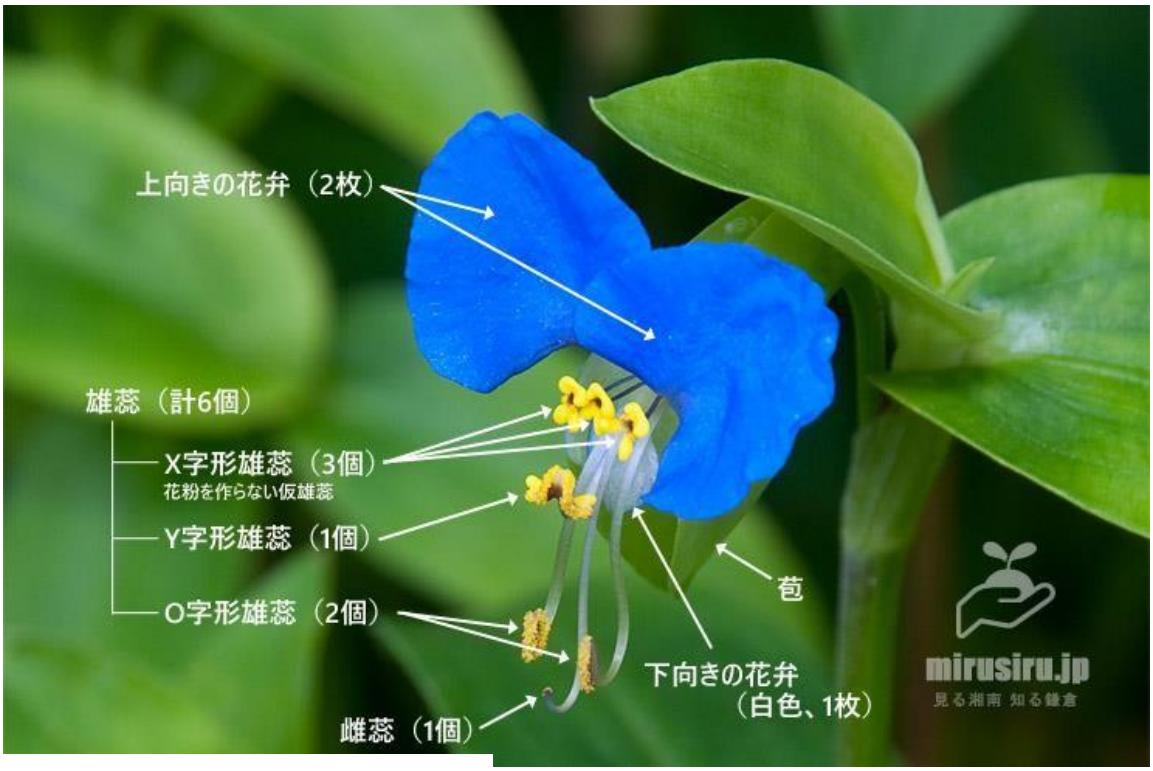
この時期は、草木の花々の少ない時期に当たりますが、いろいろな自然の営みに目をむけてみる機会にしたいと思います。（内容は観察会以外に見られたものを含みます。）

**〇ツユクサが咲き始めました。でも、よく見ると変わった花ですね。**

和歌や俳諧の世界では、秋の季語として使われているこの花。古くは「つきくさ（月草・鴨頭草)」と呼ばれたとのことです。万葉集などにも、この名で沢山の歌が載っています。それだけ、古くから親しまれてきた花です。

花の構造は結構複雑、雄しべ６本のうち、３本は虫を引き寄せるだけで花粉は出ません。１本（Ｙ字型）は少しの花粉、残り２本で虫の体にしっかり花粉をつけるとのこと。

午前中しか咲きませんので、早めに観察しましょう。




上の画像は「mirusiru.jp」より引用

○「アカボシゴマダラ」を確認しました。

このチョウは、特定外来生物に指定されています。日本では奄美諸島に在来種がいますが、関東地方を中心に、急速に分布を広げているのは、大陸産の種であることが分かっており、人為的に放された種類です。

日本在来のゴマダラチョウとの食樹（エノキ）をめぐる競合が明らかになっています。名古屋市では、2010 年にここ猪高緑地で確認され、鶴舞公園でも 2013 年に成虫が確認されました。

現在の所、愛知県以西では越冬幼虫は確認されていませんが、これ以上の分布の拡散をすることのないよう「きれいだからという理由で放蝶すること」の無いよう注意しましょう。

○「トリノフンダマシ」って何者？

漢字で書くと「鳥の糞騙し」、実はクモの仲間。

大きさは、５～7ｍｍ。画像の個体は「アカイロトリノフンダマシ」のメスで、オスは 1.5～2.0ｍｍとずっと小さいとのことです。

下見のときに見つけた種類ですが、愛知県では準絶滅危惧種、名古屋市では「絶滅危惧種Ⅱ類」に指定されています。

この種はテントウムシに擬態しているという説もあり、この仲間はガを専門にとらえて食べるように、網の構造を変えているとのことです。

出会えると良いですね。

○ヤマトタマムシは美しい！

久しぶりに見ることが出来ました。

日本の昆虫類で最も美しい種類のひとつとされています。法隆寺の国宝「玉虫厨子」に張り付けられているのが、この虫の翅で、古来より装飾の材料として、利用されているとのことです。

角度によって色が変わるのは、この色が構造色だからです。シャボン玉が虹色に見える時があるのと同じ原理です。

エノキの葉を食べに付近を飛ぶことがあります。

**〇子育ての終わったメジロの巣、建築材料は何？**

春に子育てをしていたメジロの巣です。子育てが終わり、今は、空っぽになっています。

新しい巣なので、どんな材料でつくられているか、観察するのに良い機会です。

シュロの繊維、コケ、クモの糸などが確認できました。

小さいメジロが上手に丸く卵が落ちないように作ってある事に驚かされます。

ここで生まれたひな達は、無事に巣立ちを迎えられたでしょうか。

**〇アマガエルの保護色変化を観たかったのですが・・。**

谷地田（棚田）にいました。

緑色の草の上に白っぽいアマガエル、これは、保護色としての色彩変化を観察するのに良い機会と思い、しばらく待ってみることにしました。

一説には、15 分程度で変わるとの話があったのですが、若干の色変化はあったものの、中々期待していたように変わってくれません。

アマガエルはホルモンによる色彩変化なので、イカやカメレオンのように神経による変化と異なり、時間がかかるのと、どうも個体差が大変あり、何時間もかかる個体もあるとのことです。

にわか雨になり、少し避難している間に、どこかに移動してしまいました。残念な結果になりました。

**〇集会所の広場付近だけでもこんなに・・。**

ニイニイゼミの抜け殻

ヤモリの卵

ニイニイゼミとアブラゼミの抜け殻を見つけました。小さくて、泥だらけならばまず、ニイニイゼミに間違いありません。

掲示板の屋根の隙間にはヤモリの卵が 2 つずつセットで何組かありました。お母さんヤモリは見つからず。

虫こぶ:クヌギハマルタマフシ

クサギの花

アベマキの葉には、赤くて丸いものが・・。タマバエの仲間が作った「クヌギハマルタマフシ」と呼ぶ虫こぶです。

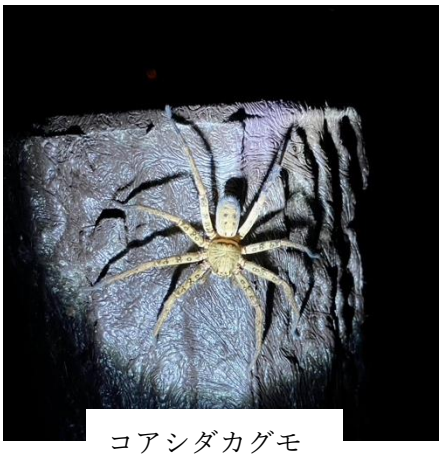
クサギの花と葉の香り、秋には青色の美しい実がなります。漢字でも「臭木」なんかちょっとかわいそう。

**〇夜の緑地を歩いて見れば・・・。**

カブトムシの活動の本番

ウスバカミキリ

セミの羽化


コアシダカグモ

カブトムシの雌

夜の猪高の森のすがたです。

昼間とはまた違った趣があります。

**〇ガの仲間ではありません。ハゴロモの仲間を覚えよう**

アミガサハゴロモ

ベッコウハゴロモ

先月号に載せたハゴロモの仲間の成虫です。

この時期によく葉の上などで見られますが、蛾の仲間ではありません。

セミやヨコバイの仲間です。この仲間で一番よく知られているのは、集団で枝や茎に取りついている「アオバハゴロモ」でしょう。

〇きれいな虫を見つけよう！

セマダラコガネ

ハンノキハムシ

マメコガネ

美しい虫は、タマムシだけではありません。甲虫（こうちゅう）の仲間には良く見ると結構きれいな連中がいるものです。「虫嫌い！」と言わず、じっと見てみましょう。

〇ほかにもこんな花やキノコ、クモがいました。

ヤブミョウガの白い花は良く目立ちます。種も面白い形をしています。

ヘクソカズラが咲き始めました。でも、標準和名はヤイトバナとのことです。

ヌマトラノオの花。オカトラノオとの区別点は、花序が垂れ下がるのがオカトラノオで、まっすぐ立つのがヌマトラノオです。葉の形も違います。

モミジタケ。キノコの仲間です。あちこちにありました。

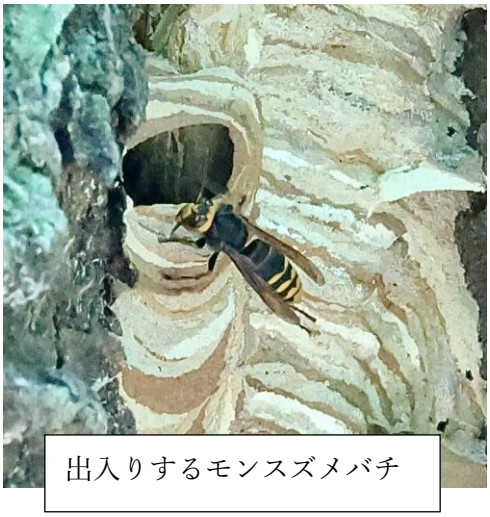
ベニバナボロギク。花が終わるとフワフワの冠毛の着いた種を飛ばします。

ベッコウタケと思われるキノコ。大きいもので直径は二十センチほどもあり、切り株に付いていました。

ナガコガネグモの幼虫と隠れ帯。隠れ帯の機能については諸説あり、クモの種類によっても異なるとされています。

**〇散策路の近くにモンスズメバチの巣を見つけました。**

木の窪みに 1m以上の長さに渡り作ってありました。通る人があまりにも危ないので、これは、撤去。



出入りするモンスズメバチ

〇7 月 17 日に「いたかの森自然体験会」

7 月 30 日に「サマースクール　猪高緑地の水の生き物観察」を開催しました。

子ども達が参加するイベントです。

アメリカザリガニ、ウシガエル、クサガメ、ヤゴやドジョウ、エビの仲間など沢山の生き物に出会える機会です。初めての体験に子ども達も大喜びでした。

８月の観察会はお休みです。

次回観察会は　９月 24 日（日）

９：30～　森の集会所集合です。

名東自然倶楽部の HP では毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

http://sizen.ciao.jp/ から是非ご覧になってください。

（右上の自然観察グループをクリックしてください。）